

挨拶



大会会長
近畿大学教授 保野 健治郎

日本計画行政学会第23回の全国大会をこの広島大学で開催しましたところ、多数ご参集いただき誠に有り難うございます。我々何分不行き届きがあろうかと思いますが、遠慮なくおっしゃって頂きまして、広島に来てよかったということを、皆様方に感じて頂ければと思います。

この大会を考えてみますと、我々大学のスタッフだけで出来たものではありません。特に地元の経財界の方々、四国の計画行政学会の方々、それから全国の会員の皆さま、次の大会の開催地である北海道からもご支援を得て成立しているわけです。特にこの大会の開催を快く引き受けて努力をして頂きました、広島大学の皆様にも心から感謝を申し上げます。

最後になりましたが、この大会は明日も行われます。その翌日はエクスカージョンも行われますが、広島でいい思い出を残されますよう心からお願いして、開会の挨拶とさせていただきます。

挨拶

学会会長

東京工業大学教授 熊田 禎 宣



本日の素晴らしい会場におけるこの大会はミレニアムで、20世紀と21世紀の頂上で開かれている大会です。中国支部長の保野先生が、原田学長、藤田知事、秋葉市長、中国経済連合会の多田会長ほか、産官学の方々との連携を旨く活かされました。実に広範囲に、広島大の前川先生、山口大の吉村先生、香川大の井原先生、それから地元の松水先生、杉恵先生、戸田先生といった方々の産官学の力を旨くオーガナイズされた、計画行政学会の一つの典型的な大会を企画して頂きました。ミレニアム大会がこうなったわけですから、21世紀の一つのモデルを、考えて頂ければというふうに思います。大変ご苦労さまでした。学会を代表してお礼を申し上げたいと思います。

さて、この直後に学会賞の表彰がありますので、普通、フェアウエイがどっちだとか、ストライクゾーンがどこなのかとか、ファールラインがどこに設定されているのかというような意味で、一言だけ申し上げておきます。今、グローバル化が急速に進んでいます。日本が進めてしまっているという側面も出てきていると思いますが、IT革命ももう遅れついでだから自分が進めようとか言いだしています。高齢化とか少子化とか、進んで欲しくないことが進んでいることが多くある中で、こういう社会ネットの波頭が白く泡立っているのが見えているという状況の中で、この学会は経済政策研究連絡委員会という学術会議の中に所属しています。39ある学会の中で指導的立場にある学会ですが、今世界の中ではアメリカ型の市場原理主義に対する批判反発も出ていますが、ヨーロッパが指導的立場を取っているわけではありません。日本でもそれが起こっていて、数年前に『反古典主義の政治経済学』という著書を出された村上泰亮先生が、長期展望のもとで歴史的な視点を持つ中で幅広い吟味をしていかないと、この社会変動の波は解き明かせないないし、政策論を組み立てることはできませんというようなニュアンスの事をおっしゃっていました。学会は今おそらくそっちをフェアウエイだと、ストライクゾーンはそっちではないかと思う形で、実は複雑系のダイナミズムの中で社会経済システムを解く方法を壊したり、それを地域現象の相互作用の中から何かくみ出そうという方向付けのもとで考える。そういう中で政策評価に照準を当てる動きが、この学会でやるべきことだろうと思います。今回の表彰ではこういう方向づけがはっきり見えていて、心強いことだと思っています。これをどういう方向に21世紀に向けて絞っていくのかと

いうことについては、次の北海道大会の中で皆さんと論じる機会があればと思っています。

本日は遠路多くの方々にご参加頂きまして、活発な研究発表も行われ、非常にうれしく思っています。準備をされたこの本大会の方々に再度お礼を申し上げて、私の挨拶とさせていただきます。

挨拶

開催校

広島大学長 原田 康 夫



皆様ようこそ広島にお出で下さいました。第23回の日本計画行政学会大会開催おめでとうございます。この度は広島大学の東千田キャンパスにて開催いただき、ありがとうございます。本来ならメインキャンパスである東広島でやって頂きたかったのですが、ここは1.3ヘクタールという小さな所で10分の1になりました。

東広島は252ヘクタールという広いキャンパスで、私の代になって移転を完了しました。それまでは東広島市は人口6万の都市でしたが、今や12万都市に膨れ上がりました。即ち、大学と東広島市地域と合体して街づくりをやったわけです。私が参った頃にはまだ街の形態を十分なしていませんでした。4年前には学生のアパートが200戸足らないと新聞に書かれました。3年前には2000戸余ったと書いて書かれました。それほど都市機能が上がってきました。全国の人口伸び率から見ますと第4位、25.5%です。この広島市は206位で、2.4%の伸び率です。如何に東広島市が大きな伸びをしたか、大学の移転が如何に大きな経済効果を地方都市にもたらしたか。すなわち先生方の計画行政学会を地でいったような現れで、また街が現れました。これを皆さんに見て頂いて、もっと学会で議論することが一番良いのではないかと思うくらいです。それだけ東広島市は伸びました。一つだけ困ったことがあります。それは医療です。私は医療畑ですが、大きな市民病院がない、あるいは基幹病院がありませんでした。ただ一つ広島療養所というかつての陸軍の病院がありますが、この療養所が今回の補正において、市民病院としての機能を果たすべく概算要求しました。この運動の中で私も一生懸命お願いして7年もかかりました。これができれば本当の都市機能が完成するということになります。大学が移転しただけで一挙に6万人の変化が生じています。

その点この跡地辺りは全く過疎になりました。1.3ヘクタールの中で学生も少なく、売り払うようにと閣議決定で言われていましたが、何とか頑張りまして、1.3ヘクタールを広島大学の発祥の地であるということで、建物ができました。そしてここに夜間大学院マネジメント専攻や、昼夜開校の経済学部・法学部をここへ戻すということになりました。これからはここを社会人のための教育拠点にシなくちゃならないと思っています。となりは公園になっていますが、後の10ヘクタールは全く手つかずで、本来ならばここ

は市と県とできちっとしたものを造って頂くことになっていましたが、止まっています。したがって日本計画行政学会の先生方には、行政の方々に皆さんが策定された考え方を持ち込んで頂いて、行政の指導もして頂きたい。そして行政が間違っているときには、これはいけないという歯止めをかける学会になって行かれることで、今後日本を代表する最も力のある学会に成長されるのではないかと思います。大いに期待しております。これからの発展を祈念いたします。

挨拶

地元行政

広島市企画総務局理事 島本登夫



広島市から、日本計画行政学会第23回全国大会の開催に当たりましてご挨拶を申し上げたいと思います。本来ですと市長の秋葉が来てご挨拶を申し上げるところですが、あいにくと今日は9月の定例議会がありまして、僭越ではありますが私が代わりましてご挨拶を申し上げます。

第23回の全国大会開催誠におめでとうございます。全国各地から当大会に参加をして頂いています皆様ようこそ広島にお出で下さいました。心から歓迎を申し上げたいと思います。日本計画行政学会は昭和52年に設立されまして、今回が第23回の開催ときいております。着実な歩みと大きな業績に対して心から敬意を表したいと思います。

私ども広島市におきましても、昨年の6月に基本構想を策定しまして、同じく昨年の11月には2010年を目標とする基本計画を策定しました。基本計画・基本構想といったものは、えてしてどの都市も同じようなものになってしまって、金太郎飴とよく言われます。広島市の基本計画がそうならないためにどうすればいいのかということで、いろいろ知恵をしまりました。最終的には広島のアイデンティティーを大事にしていこうということで計画作りをしました。広島らしい事業を折り込んだ計画です。一つ例を挙げますと、広島市はご存じの通り世界で最初に被爆した都市です。原爆というものは、科学技術の発展が必ずしも人類の幸せには繋がらないという見本です。そこで広島市は科学技術発展として平和の方に比重を置けるような研究あるいは産業の振興を目指して行きたい。そこではどういう産業振興をしていけばいいのかというような目標をもって行政をやっているということです。現在は2003年を目標とするこの基本計画の実施計画の策定しております。ご案内の通り、現在は地方公共団体は大変お金に困っております、なかなか立派なものを造るという計画はできません。しかしながらそのアイデンティティーを大事にしていくという基本的な理念の下に、実施可能な計画を作り、これを一つずつ実行していくことによりまして、21世紀の住みやすい安心して暮らせる広島市を上げていきたいと考えています。

今日から始まりますこの学会のテーマが「21世紀の地域システムと計画行政」ということですから、この大会で発表される様々なご講演、あるいは行われる様々な議論が、私どもにとっても大変参考になろうかと思えます。是非ご成功をお祈りしたいと思います。最後になりましたが、この日本計画行政学会の益々の発展とこの大会のご成功、それからご臨席の皆様のご健勝をお祈りして挨拶とさせていただきます。

挨拶

地元経済界
中国経済連合会会長 多田 公 熙

〔中国経済連合会副会長 徳 永 幸 雄 氏代読〕



中国経済連合会副会長の徳永です。本日は、多田会長が出席できませんので私が代読させていただきます。

日本計画行政学会第23回全国大会の開催誠にありがとうございます。当地広島に計画行政に関する全国各地の研究者が一同に会し、それぞれの研究成果のご報告を拝聴できますことは、当地にとりましては誠に幸せに存じております。

経済界としても、地域の発展計画や地域産業のあり方などを検討する上で、地域の行政機関や大学等との連携は不可欠です。そのため中国経済連合会においては、これまでに於きましても様々な取り組みを行ってきました。その中の一つが、本大会の共催団体となっています地域経済研究推進協議会の活動です。本協議会は広島大学経済学部附属地域経済システム研究センターが設置されたのを契機に、地域経済に関する研究活動を推進することを目的とし、平成2年の4月に設立されました。会員は行政機関・経済団体・法人等、現在45会員で構成され、中国経済連合会に事務局を置いております。活動内容は、広島大学経済学部附属地域経済システム研究センターと共同で、産学官の連携による研究集会、シンポジウム、研究会などを開催致しました。テーマとしては、地域発展戦略、産業政策、中四国地域の連携、中山間地域振興、地方分権等、時機に適したものを取り上げてきました。特に平成10年3月に閣議決定されました新全国総合開発計画「21世紀の国土のグランドデザイン」の策定に向けて、地域の各界が一体となって、地域のアイデンティティーの合意形成に向けた活動を展開してきました。その成果として、環三海二山交流圏構想が、先の21世紀の国土のグランドデザインや、更にそれを地域別に展開しました中国地方開発促進計画において位置づけられたことを高く評価するものであります。

今後の具体的な地域の問題としては、地方中枢・中核都市圏の整備、産業の高度化・多様化、全国に先駆けて進展する過疎化・高齢化への対応、循環型社会の形成など様々な課題に直面しています。これらは何れも産学官の連携による対応を必要とするものです。地元経済界としては、日本計画行政学会全国大会の三日間のプログラムを通じて、産学官の交流連携が一層促進され、大会テーマである「21世紀の地域システムの形成」に向けた新たな取り組みへの契機となることを祈念しまして、お祝いの挨拶とさせていただきます。